

近

年、「脳血管疾患（脳卒中・脳梗塞）」に特化した自費型リハビリ施設の急成長が注目されている。そうしたなか、総合スポーツクラブ事業大手の㈱ルネサンスは、さる8月1日、業界初となる脳卒中リハビリに特化したデイサービス「ルネサンスリハビリセンター鎌倉」を神奈川県鎌倉市に開設した。

脳血管疾患は、65歳以上の高齢者の受療率が最も高い傷病かつ介護が必要になった原因のトップにそれぞれランクされ、男性の場合は特に高い。冒頭でふれたように自費型リハビリ施設が注目されているのは、病院と比べてリハビリに時間的制約が少なく、「早期回復」「社会復帰」を目指す現役世代の患者ニーズが高まってきたことを意味する。

同施設開発の経緯について、同社アクトタイプエンジニアリング部課長の橋本剛氏は、「2年前に、リハビリセンター鎌倉のプログラムにも導入されている『川平促進回復療法』の研修を受講しま



延床面積110㎡、上肢・下肢マシン各2台を配置、継続した回復訓練を行なう



川平促進回復療法を用いた肩・腕・手指の片麻痺を回復するリハビリ



上肢リハビリ装置を使った電気・振動刺激による上肢の回復運動

ルネサンス、「脳血管疾患リハビリ」施設を 介護保険内デイサービスとして開設

オープン1週間で登録者数50人を超える通所介護施設「ルネサンスリハビリセンター鎌倉」

した。それを当社のリハビリ特化型デイである「元氣ジム」の脳卒中発症後の麻痺でお困りのご利用者に施術したところ、複数のご利用者から「こういう療法は初めて」と涙ながらに喜んでいただいたのがきっかけです。もともと、リハビリ特化型デイサービスの元

「諦めている」ご利用者が多いのだと痛感し、かねてより事業化を検討してきました」と話す。

リハビリセンター鎌倉の特徴は、脳卒中発症後の麻痺の改善に特化したリハビリを「介護保険サービス」として事業化した点にある。橋本氏は、介護保険施設とした狙いについて、「自費の脳血管疾患特化型リハビリ施設は、対象者が一定以上の富裕層に限られてしまいます。そこで、当社の「元氣ジム」の機能をさらに脳血管疾患に特化させ

た施設として、介護保険の枠組みのなかでアプローチできないかと考えました」と話す。介護保険対象とすることで対象者の間口が広がり、少ない利用者負担で済むことから、利用回数をふやせ、さらに効果が上がる好循環を見込む。

サービス内容は、常駐の理学療法士が麻痺の症状に合わせて、先の「川平促進回復療法（川平法）」「上肢リハビリ装置」「歩行再建プログラム」などのメニューに基づいて、麻痺の改善や二次的に生じる機能障害を予防することにある。川平法は、上下肢の片麻痺回復が目的で、麻痺した手や足を操作（促進治療）し、回復運動をすることで大脳から脊髄までの神経回路を再建・強化し、随意運動を実現するものだ。

「上肢リハビリ装置」は、脳血管疾患や整形疾患などによる上肢の運動機能障害をもつ患者を対象に、電気・振動刺激を併用しながら、上肢（肩・肘）の自動運動をサポートする装置を使い、患者に合わせて難易度や免荷量、訓練パターンを設定することで適切な負荷により回復運動を行なう。

このほか、患者の身体状況に合わせて

て体幹装具「トランクソリューション」や膝・足に装具を装着し、自走式トレッドミルを歩行する「歩行再建プログラム」も用意。

通所介護施設としての類型は地域密着型で定員は18人以下だが、質を担保するため、現状は定員12人で営業を開始。今後はデイの営業時間外にて鎌倉市以外の利用者に対して自費サービスとしての提供も検討している。

営業時間は、元氣ジム同様の午前・午後2回。スタッフは理学療法士1人、運動指導員2人、看護師1人、介護職員2人の計6人と、元氣ジムより少ない人数で運営が可能。「営業状況をみたらうで、多店舗化も前向きに検討したい」と構想を明かす。

オープン1週間で登録者数は約50人と上々のスタート。うち40歳代、50歳代の2号被保険者の登録が10人と、他の保険外リハビリ施設同様、現役世代のニーズが高い。なかには、市内の船舶などにある近隣の元氣ジムと、掛け持ちする利用者もいるとのこと。今後、同社の既存事業であるスポーツクラブや元氣ジムとどう組み合わせた事業展開をめざせるかが楽しみだ。